

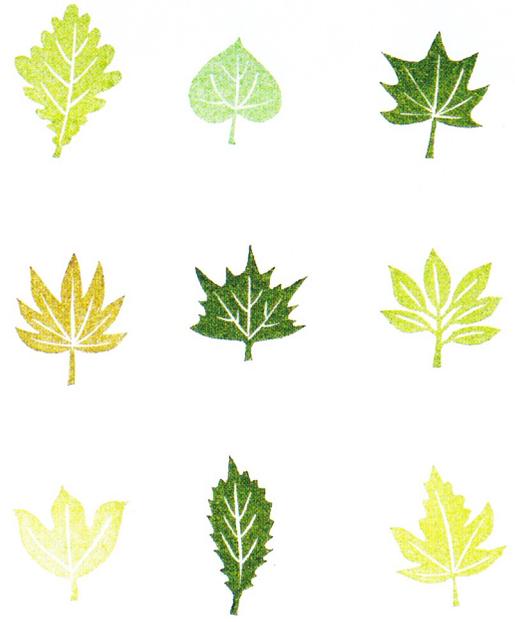


カフェ・シユトラッセ
<http://kafee-strasse.blog.ocn.ne.jp/>

道の上から。
 「そんな思いでクルマに乗っちゃいけないんだよ……。」と、時には自分で自分に云ってみたりする。
 イライラやストレスでどうしようもない時など、ふと気づくと思いっきりアクセルをこんちくししよう!と云わんばかりに踏みつけたりして。でもね、そんな思いのつてあげちゃ、クルマが可哀想だ、とふっと思つてアクセルをゆるめてあげるので。
 日頃マスターと呼ばれてはいますが、私、カウンターのの中よりも配達でクルマを運転している時間の方が、実は、長いんです。云わば、「道の上」が僕の職場だったりもする。
 僕の命を乗つけて走る 僕の愛車シユトラッセ号。もしかしたら 人の命も奪いかねないパートナー。大切に扱わなきゃ、もあるけど、「道の上」も職場であるのなら、シユトラッセの店内と同じ様に丁寧なるまわなければ、ね。

(児玉理)

今月のほんこ 



一期一絵2012
 野中秀司 下田ひかり二人展

8月9日(木)～8月12日(日)
 松本市梓川楼 アカデミア館
 9:30～17:00 (最終日16:30)
 入場無料

洋画家 野中秀司、現代美術家 下田ひかり
 二度目の師弟二人展です。
 50点程の展示になるかと思ひます。是非足をお運び下さい。

これからとお知らせ

朝日村づくりびとのブログも見てくださいね!
<http://asahinobijyutsukan.blog136.fc2.com/>
 夜のさんぽのバックナンバーもこちらから読めます!

 hankoya.noraneko@gmail.com

夜のさんぽ

朝日村の創っている人が作っているフリーペーパー

2012年 7月号(vol.6)

このフリーペーパーを創っているひとたち
 藤牧 敬三(クラフト) / 下田ひかり(現代美術) / 児玉 理(自家焙煎珈琲) / やぎきなおみ(酒しゴムはんこ)
 表紙の写真 / 百頭たけし(web写真家) HP 山ヲ煮ル・・・<http://d.hatena.ne.jp/hyakutou/>

子ども椅子の制作

家具工房スタイル・ガレの仕事の約9割はお客さまの依頼による家具や生活用具のオーダー制作です。その他の1割は企画展などのイベントに合わせ、こんなモノがあったら喜んで使っていただけそうだな・というモノを想像しながら制作しています。

この春行われた企画展、松本市美術館にて「はぐくむ工芸」、松本グレイノート「子供の椅子展」、新潟市のギャラリーたねん「コドモノモノ展」と子供のモノがテーマの企画展が偶然重なり、子どものための椅子を制作することになりました。

子ども椅子の制作は現在20歳の息子、今年17歳になる娘のために作った以来の制作になります。振り返ってみたらそれ以外に子どものための椅子を制作したことがありませんでした。自分の椅子というパーソナルなモノがあることは子どもながらに無意識に自分の居場所・モノと認識しているのではと思います。木の子どもの椅子ってとても贅沢なモノと思いますが自分の居場所が心地良く、そこで食事したり夢中で絵を描いたりとても大事な居場所なのかな・と昔を振り返り感じました。(現在では息子の椅子は工房のインテリアに娘の椅子はデザイン・ピアの椅子になっていますが・・・)

そんな息子、娘の椅子を参考に子ども達が座りたくなるような子ども椅子を制作していきました。

・コドモツール(写真上)

昔もたれが無いことで色んな使い方ができる子ども椅子とします。大人が中腰で作業する時など大人になってからも色々と使えそうなロースタイルです。座面の窪み・カーブは反り鉋を使って削り、手作りの風合いがあります。



・ミニストール(写真上から2番目)

子ども椅子と言うより、玄関先に置いて靴を履いたり、少し危険はありますが踏み台にしたり、ソファに近くでローテーブルに合わせ腰かけたり、とても汎用性があるミニストールです。

・コドモウインザーチェア(写真上から3番目)

長く座っていて欲しいという願いをこめ、子どもにとって居心地の良い椅子をイメージして作りました。

・3チエア・ミニ(写真下)

この椅子は美しい子ども椅子をテーマに企画・制作しました。北欧の椅子のようにシンプルなデザインで木の素材を生かし、またペーパーコードの紙の素材感も心地よい。大人も座れる(細身の方)子ども椅子です。肘掛の曲げ木はラミネート成形(1枚の板を約4mmの厚みに順番に木取りUの字に接着・成形しています。)

今回の企画展をきっかけに4種類の子ども椅子を企画・制作しましたが、てらいのない温かい雰囲気椅子ができました。新しさや斬新さは時には必要かもしれませんが、ストレートに想いを込めて丁寧に作り込んでいけば、必ず良いモノが出来ていくのではないかと感じます。細かいクオリティも大切ですが、作品がこもる事、雰囲気や匂いに近いような作者の香りが作品から感じられる事も重要な要素だと思います。

余談ですが、昔、制作した息子と娘の子ども椅子。近い将来、孫が座る日が来るかもしれません。(想像が飛躍しすぎですが・笑。)

スタイル・ガレ <http://www.stylegalle.com/>

(藤牧敬三)



わからない事

「センス」は、25歳で止まるらしい。そんな話を聞いて、それは嫌だなー何とかならないのかなと思っていたが、今その意味が少し分かってきたような気がする。私は今年28歳になる。28年生きてくれば30歳の時と今とは感じ方や見え方も違ってくる。

一番違うと思うのが、「わからないものが無くなって来た」という事。

昔は、目に触れるものが何でも新しく見え、何でも格好良く見え、そして、「わからないもの」も多かった。わからないものと言うか、どう感じているか判断ができないものというか。良いとか悪いとか、好きとか嫌いとかでくる事のできない感覚。

高校生の頃、仲の良い友達と岩井俊二監督の「スロウテイル」という映画と一緒に見た。その映画の持つ雰囲気やラストシーンの奥深さに非常に引き込まれた。それで、見た後に友達に「良い映画だったね」と言ったら、「面白くなかった」と一刀両断にされてしまい、この映画が何で良いと思っただのか言葉に出来なかった私は、自分の感覚がおかしいのかなーとしばらく悶々と悩んだ記憶がある。「人に分かるようにどこが良いと説明できないものは、ダメなものなのか?」

今だったら、この映画の良さ、楽しみ方を語ることができるだろう。なぜなら、それを語れるだけ他の映画を見たり、何より自分の好みや知識が自分で分かっていたから。

自分の好みや自分の知識、自分自身を知り、そうして一つ一つ蓄積されてきた経験が、自分自身のアイデンティティとなつて、一人の人間を形成するのだと思う。それが大人になるという事で、その自分自身の価値観が大体固まってくるのが25歳くらいであり、それが「センスが止まる」という事なのだろう。

しかし、そうして自分自身を形成してくると、色々な事を今までの経験や好みで物事を判断するようになるように思う。「これは私の好きなものに似ているから好きだ」「これは今まで自分が見てきたものから考えて、良いも

のだ(悪いものだ)」という風

に。

そうして、自分自身の価値観で物事を「自分が理解できるように」判断して、全ての事を自分の理解できる事として(無理矢理にでも)取めてしまう。自分のわからない事は、悪いもの、ダメなもの、として片付けてしまふ。

結果、大人になると「どう感じればいいのか判断できないもの」が無くなってしまふ。

本当は、世界は分からない事だらけで、芸術の世界にしたって、新しく出てくる感性は、私にはわからない事は、私には、わからないものはわからないまま、心の中に溜めておいて良いのだと思う。無理に答えを出したり、当てはめたりせずに「わからないけど気になる」ものとして、もやもや心に置いておけばいい。

自分にはわからないものがあるという事が、自分自身を広く深くしていくのだと思う。

何しろ、世界には60億も人間がいて、それは全て自分と違う人間で、全て違う考えや感覚を持ち、今も何かを創り出しているのだから。

(下田ひかり)

<http://nikarishimoda.com/>